

サイエンス・フェア

長崎大学では、県内の教育機関や行政機関、地域社会との連携のもと、子どもから大人まで多くの人たちが集まる場所へ出かけ、科学に対する興味・関心を高める事業として、平成27年11月3日（祝）、佐世保玉屋を会場に、サイエンス・フェアを開催しました。

イベントのメニューは四つ。

街にやってきた科学の展示や実験コーナーに1,000名を超える方々の参加がありました。

実験・観察コーナー

大学の関係者や佐世保工業高等専門学校、そして企業、県内の教員などから18のブースを出展していただきました。あちらこちらで足を止め、科学の不思議さに感動する姿、実験で示される科学現象に引き込まれる様子、市民のみなさんの科学への関心の高さを感じる一日でした。



体験だけでなく、実際に物づくりにチャレンジしていただき、そこにある科学の秘密を感じていただく場面もありました。



研究発表コーナー

小学生から高校生までのみなさんが、個人あるいはグループで研究したものを展示・発表しました。県下から集まった69の研究物に参観のみなさんも興味津々、高校生の説明



力は「さすがだ」でした。大学で実施している「未来の科学者養成講座」で学んでいる小中学生もりっぱな発表でした。



同年代の作品に目を通す参観者



数の不思議を

ロボットの仕組みを説明する子どもたち

ミクロの世界・写真クイズ



2回に分けて、本大学名誉教授監修によるミクロの世界の写真クイズを実施。電子顕微鏡等によるミクロの世界を知ることができました。

サイエンス・クイズ大会

28チームが、サイエンス・クイズ大会に出場。家族で、あるいは、学校の仲間で、参加し、科学の難問に挑戦。予選を勝ち抜いた11チームが決勝で対決。みごと、佐世保北中学校の「名無しのチームさん」が優勝。数学マスターコース受講生の「未来の数学マスターB」が準優勝となりました。



サイエンス・ラウンジ

本年度新規の取組です。市民のみなさんと科学の在り方を意見交換するサイエンス・ラウンジを開催しました。まず、本大学院工学研究科の山本郁夫教授が、「ロボットの開発と教育」について基調講演し、その後、会場のみなさんと意見交換を行いました。



宇宙遊泳をしたエイの形をしたロボットの話聞く市民のみなさん